

古文単語 特訓第一回(小テスト)

傍線部を口語訳せよ。

- ① つきのおもしろきに、夜更くるまで遊びをぞし給ふなる。
- ② かねてのあらまし、みな違ひゆくかと思ふに
- ③ ところせき御いそぎの勢ひなり。
- ④ 母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて
- ⑤ これより歌詠みの世に覚え出でにけり。
- ⑥ いみじく静かに公に御文奉り給ふ。
- ⑦ わたる日の影も隠らひ 照る月の光も見えず
- ⑧ 入道、今日の御まうけいといかめしうつかうまつれり、
- ⑨ このもとの女、あしと思へるけしきもなくて
- ⑩ 門引き入るるよりけはひあはれなり。
- ⑪ 常住ならんことを思ひて、変化のことわりを知らねばなり。
- ⑫ 右大臣は、才世にすぐれ、めでたくおはしまし。
- ⑬ 興なきことを言ひても笑ふにぞ、品のほど計られ
- ⑭ なべてならぬ法ども行はるれど、さらにそのしるしなし。
- ⑮ 心に忘れずながら消息などもせで
- ⑯ 前の世にも、御ちぎりや深かりけむ。
- ⑰ 四季はなほ定まれるついであり。
- ⑱ 声は幼げにて文読みたる、いとうつくし。
- ⑲ 手のあしさよさ、歌の折に合はざらむも知らじ。
- ⑳ まだ夜を込めて都を出づ。有り明けの月の影、東川の浪にうつりて・・・